

## 韓国語を学ぶ



留萌医師会  
富山整形外科

富山 有 一

英語やドイツ語の成績は散々で、留学をしたこともなく、自分は生涯外国語には縁がない人間と思っていました。しかし外国語が話せないことはちょっとした劣等感にもなっていて、話せる人に羨望や嫉妬を感じる時もあり、この年齢で今さらと諦めつつも、同時にチャンスがあればという思いもありました。

縁はどこに転がっているか分からないもので、10年程前に韓国ドラマや映画が流行る、いわゆる韓流ブームが到来しました。世の中年女性たちはこぞってヨン様ファンとなり、当初は冷めた目でそれを見ていたのですが、不覚にもある韓国ドラマ（有名な「冬のソナタ」ではありませんでしたが）にすっかり魅了され、そのドラマだけを楽しみに一週間を過ごすファンになってしまいました。

ほとんどの韓国ドラマは日本語吹き替えで放映されていましたが、徐々に日本語字幕で音声は韓国語という放映スタイルが増え、それまでは韓国語といえば韓国と言葉が同じ隣国の女性アナウンサーが使う独特の抑揚の印象ばかりが強かったのですが、ドラマの中の多分普通の生活の中で使っているであろう韓国語はこれとは全く別物で、どこか日本語に似た響きに親しみを感じ、特に恋人たちが愛を囁く時の韓国語は甘く、そして美しく（こんな時にはどの国の言葉も甘く美しいのでしょうか）、愛を囁くかどうかは別にして、私もこの言葉で話してみたいと思うようになり、NHKハングル講座のテキストを購入して週に一度の勉強を始めたのでした。

このころ、都市部では既に韓国語教室は当たり前になっていましたが、私が住む田舎には教室はなく、また韓国人と知り合うチャンスもなく、かといって毎週札幌や旭川に通うのも難しく、結局テレビでの講座を信じての独学しか選択肢はありませんでした。強い意志とか根気といった類とは無縁であることは承知していましたが、テキストを購入したからには三日坊主はもったいないけれど、初めての外国語を講習最後まで続けられる自信もありませんでした。また、当時から韓国語は文法や単語が日本語と似ているので、日本人にとって最も習得しやすい外国語であるという魅力的な言葉は韓国語教室の誘い文句でもあり、多くの韓流ファン同様に私もまんまとそれを信じてしまったのですが、実際に始めて

みると、やはり外国語は外国語でそんなに甘いはずもなく、確かに「文法や単語が日本語と似ている」というのはその通りで、中国語由来の漢字語という日韓共通の単語が多く、これらは発音も似ていて習得する上での利点なのですが、文法が似ていることは、例えば日本語を学んで日本語の文法を知っているアメリカ人が韓国語を学ぶ際には有利であっても、日本語の文法など知らなくても最も自然な日本語が話せる日本語ネイティブスピーカーにとってはあまり利点とはいえません。中学から外国語といえば英語という概念がインプットされた頭には語順が同じというのはむしろ弊害ですらあり、日本語を韓国語にする際も、頭の中で無意識にわざわざ語順を英語的に変換し慌てて元に戻すという無意味な過程が生じてしまい、当時既に柔軟性や融通性に乏しくなっていた私は、その無意味な過程が消えるまでに二週間を要しました。逆に当初は難関と思われたハングルという文字は、予想外に容易で一週間もあれば充分習得可能でした。

結局、初級を終えるのに2年掛かりました。初級をマスターすると普通の会話はある程度可能になります。そうになると、読み書きだけではなく実際に会話がしたくなりますが、独学の悲しさで相手がいません。しかし、幸いなことに、その時既にインターネットはこの悩みを解決するまでに普及していて、これを使えば日本語を学ぶ韓国人と出会うことも容易でしたし、直接会って話す時の音質には敵わないまでも、電話よりはクリアな音質で、しかも無料で何時間でも会話することが可能で、近くに教室がなくても外国語を学べる環境がとっくにできていることを実感しましたし、時差がないのも都合を付ける上で幸いでした。

そんなこんなで、結局8年間も続けてしまいました。最初はツアーだった旅行も、独り旅でも言葉で不自由することなくできるようになりましたし、友人もでき、彼らの多くは日本語学習者であるためか、少なくとも世間話の範囲では反日的な印象は皆無ですし、何より外国の人とその国の言葉で意思疎通ができる醍醐味を知り得たのは至上の喜びでした。

ただ、この年齢になっても煩惱は消えないもので、自分が独学で外国語を学ぶことができるかと最初から知っていたら、もっと早くから、もっと多くの国で使えて仕事にも役立つ英語を選択することもできたのというわずかな後悔の念が一瞬頭を過ぎるのも事実で、特に昨今はその頻度が増えてしまうような世情なのが何とも残念ではあります。